



「寝冷え」の正体はライノウイルス ～ライノウイルスは風邪の原因で一番多い!～

11月に入り、鼻水、鼻づまり、軽い咳がでる、俗に「寝冷え」といわれる風邪のお子さんが増えました。この風邪の原因はライノウイルスというウイルスによるものです。このウイルスは、鼻、のどなどの上気道に炎症を起こし(医学病名は急性上気道炎)、春、秋の季節の変わり目に流行します。実は風邪の原因ウイルスで一番多いのは、インフルエンザウイルスではなくライノウイルスで、風邪の約半数を占めるといわれます。

ライノウイルスには血清型が100種類以上あり、血清型が異なると何度もかかるので、毎年のようにかかってしまいます。多くの血清型があるのですべての型に効果があるワクチンをつくることもできません。

このウイルスの潜伏期間は1～3日です。感染による炎症は上気道に限られ、通常発熱はなく1～2週間程度で自然に治ります。特効薬がないため、治療としては症状を和らげるお薬を使います。

Q:今年の手足口病の流行株は？

A:今治市内で流行している手足口病の患者さんからコクサッキーウイルスA6が分離されています。

このウイルスは2009年頃から日本で分離されるようになり、現在まで流行を繰り返しています。コクサッキーウイルスA6による手足口病は、発疹や水疱が手のひらや足の裏だけでなく、腕や脚、口のまわりなどにも出現するのが特徴です。

1～2か月後に足や手の指先の皮膚が剥離したり、爪が脱落したりすることもあります。

手足口病のウイルスにはこれ以外にもエンテロ71、コクサッキーウイルスA16などがあり、違う型が流行すれば再度かかることがあります。



11月の感染症情報

10月に続いて手足口病の持続的な発生があります。報告数は1医療機関当たり3人/週程度です。すべて未就学児で2歳以下のお子さんに多くみられます。そのほか感染性胃腸炎の発生が散発的にあります。それ以外に流行している感染症はありません。



11月の利用状況

11月の利用延べ人数は46名で、1日平均利用人数は2.2人でした。年齢別では、1歳児が30人で、最も多く全体の2/3を占めていました。疾患としては急性上気道炎がほとんどで、そのほかには手足口病、感染性胃腸炎、突発性発疹、ヘルペス歯肉口内炎などがありました。

11月は冒頭に述べたようにライノウイルスによると思われる急性上気道炎が多くみられました。これを契機に気管支喘息を発症するお子さんもありました。今年も残り1か月となりました。くれぐれもご自愛ください。